

保育計画(新規事業計画)成果報告書

法人名等	特定非営利活動法人アスイク
施設名	アスイク保育園薬師堂前
報告者（役職）	佐藤 眞美（園長）
住所・連絡先	仙台市若林区木ノ下4-3-20
	☎ 022-290-9316
	E-mail Masami_sato@asuiku.org

○タイトル（保育計画 or 新規事業計画）

絵本・紙芝居等を利用した感覚的保育支援

○主な助成備品

絵本・大型絵本・紙芝居・パネルシアター

1. 保育計画(新規事業計画)策定の目的

集合住宅の一角に位置する都市型保育園である当園においては、空間的な制約から、室内あそびのバリエーションを増やし、児童の心身の安定や健やかな育ちに寄与することに大きな課題がある。

そこで、絵本をはじめとした視覚教材の種類を増やし、子どもたちの想像力や自然の風物・社会的な事物への興味、生活に対する意欲を育てていきたいと考えた。

2. 具体的な実施内容

・大型絵本

食育の観点から、身近な調理器具である「フライパン」や子どもたちの興味を引く「おべんとう」をテーマに取り上げた絵本を保育に取り入れていった。

・紙芝居、パネルシアター

おはなしを楽しみながら基本的な生活習慣を知ることや、日々の生活場面を再現することで日常を発見できる楽しさを味わうことをねらい、朝の会や夕方の合同保育などの場面で紙芝居を導入した。また、パネルシアターについては子どもたちに親しまれている歌を題材にした作品を、誕生会などの場面で活用していった。

・絵本

子どもたちが気軽に手に取ることが出来るサイズ感で、子どもたちが散歩先などで出会っている身近な自然や動物などを取り上げた低年齢児向けの図鑑絵本を保育に取り入

れていった。保育者が読み聞かせるほか、子どもが自由に出し入れできる本棚に置き、読みたい時に子ども自身が絵本を選び手に取れるようにしていった。



【図1・2】

散歩先などで
見かける身近な
生き物の姿に親
しむ。



【図3】

子どもたちの大好きな料理が
次々と出てくる大型絵本「おべん
とう」の読み聞かせ

3. その成果と評価

①「みんなで見て楽しむ」空間づくりへの効果

おおぜいの子どもの前で披露しても、どの位置からもしっかり見ることのできる大きな画面の絵本や紙芝居は、読み聞かせに対する子どもの期待を膨らませ、「同じ絵本をみんなで見て内容に共感し楽しむ」機会となっていた。パネルシアター「バスにのって」「おばけなんてないさ」は、子どもたちの間でも「ブーム」のような現象が起きた。保育者の膝に乗って「バスにのって」の歌に合わせて揺さぶってもらふあそびが子どもたちのお気に入りとなったり、「おばけなんてないさ」は、夏まつりの行事で子どもたちがイメージを共有しながらお面を作ったり「おばけごっこ」に発展するなどの影響が見られた。

未満児保育の主導的活動といわれる「みたて・つもりあそび」の成立において、子どもたちがあそびのイメージを共有できることの意義は大きい。これらの教材が大いに役立ったと考えられる。

②「読んでもらえて嬉しい」絵本がもたらす子どもの安定

絵も美しく精密で、子どもたちが散歩先などの園周辺で出会っている鳥や動物、毎日の食卓にのぼる果物などを題材にした図鑑絵本は、年齢を問わず子どもたちの気に入るところだった。特に新年度、園全体が落ち着かずにいる時期や、朝夕の合同保育などの時間帯に、こうしたお気に入りの手を取り、保育者に「読んで」と持って行きしっかりと受け入れられる環境を大切にしていた。

幼い子どもが、大人の膝の上で好きな絵本を心ゆくまで楽しむ経験は、将来に渡って子どもの心を支える貴重な記憶となる。絵本が子どもの心身にもたらす大きな影響を踏まえながら、丁寧に子どもの心を満たしていく保育を提供できるよう、職員みんなで取り組んでいった。

4. 今後の課題と展望

絵本や紙芝居などの視覚教材を、どのような形で保育に活かしていくのか。例えば、物語の再現をしてみることで、ごっこあそびや劇あそびに発展させていくとか、食育活動との連携、散歩先で図鑑を広げながら調べてみる……など、視覚教材を入り口に日常の保育をさらに豊かに展開していく工夫を、保育者ひとりひとりが意識して取り組んでいけるようにしたい。そのために、さらなる教材研究や他園の実践にも学び、街中の小さな保育園でありながら豊かな保育実践を重ねていけるよう、職員一丸となって模索していけるようにしていく。

以上